

デザイン仕様書

■内容

着物ビギナーに向けた、「桐箆笥ユニット」と「その他のユニット」を生活スタイルに合わせてカスタマイズできる収納家具

■基本コンセプト

- ・少ない枚数の着物を所有する着物ビギナーに向けた「桐箆笥ユニット」を収納家具のベースとする
- ・後から「桐箆笥ユニット」を買い足すことで着物の収納容積を増やしたり、「その他のユニット」と自由に組み合わせることで使用者に合わせた使い方ができる家具
- ・リビングや自室に置いても圧迫感を与えず、JAPANDI^{※1}な雰囲気と調和する和モダンな外観デザイン
- ・男女ともに使用できるユニセックスな外観デザイン

■具体的な仕様

カスタマイズできる収納家具 全体について

[デザイン]

- ・リビングや自室での使用を前提とし、現代の狭小住宅でも圧迫感を与えない外形デザインであること
- ・伝統的な桐箆笥(和箆笥)の印象ではなく、和モダンな外観デザインであり、JAPANDI な雰囲気の内インテリアとの調和が取れること

ベースとなる「桐箆笥ユニット」について

[仕様]

- ・たとう紙^{※2}に入れた着物を数着、平置き状態で引出しに収納・保管できる桐箆笥
- ・着物の収納・保管を目的とするユニットのため、引出しの気密性を保つこと
- ・引出しは1ユニットあたり2段までとする

[サイズ]

1段あたりの引出し内寸

- ・たとう紙が平置きで収納できる 幅 960mm、奥行き 385mm、高さ 110mm 以下
 - *着物1枚をたとう紙に入れ平置きした状態は、平均 30mm の厚みになる
- ・桐材の板厚は 20mm(底板にのみ 8mm 板を使用する)で設計のこと

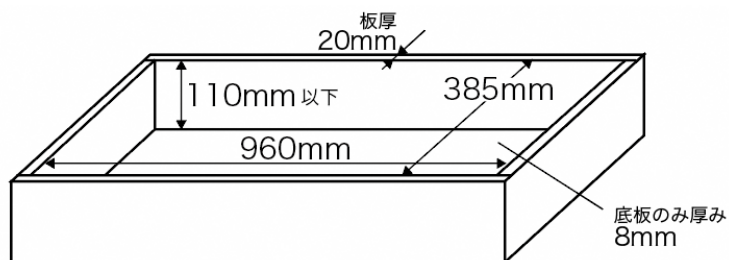


図 引出し内寸

桐箆笥ユニットの外寸

- ・幅 1040mm、奥行き 450mm、高さ 280mm 以下（脚などの高さは含まない）
*引出しを押し込む際、空気が抜ける空気口を塞がないよう“あたり”という部品を壁板側に
取り付けるため、引出の奥と壁板の間に 20mm 程度の空間が必要となる
- ・桐材の板厚は 20mm（背面(壁板)のみ 5mm 板を使用する）で設計のこと

[製造上の制約]

素材

- ・基本的に桐材の使用を前提とする。ただし、脚部分、取手部分などにはウォールナット、オーク、ホワイトアッシュ、パイン、など一般的な家具に使用される他の木材も使用可

[販売価格]

1 ユニットあたり 15 万円前後

「その他のユニット」について

[仕様]

- ・書籍、書類、帽子、アクセサリ、服、などといった日常で使用する物を収納する収納家具
- ・オープン棚、書棚、ハンガーポール付、戸棚、など収納する物や使用者に合わせた選択ができる
- ・基本的に「桐箆笥ユニット」の上下に組み合わせて使用することを想定している。ただし、ハンガーポールなど高さのある収納物を収納するユニットについては、「桐箆笥ユニット」のサイドへの展開も可

[サイズ]

ユニットの外寸

- ・幅、奥行き、高さは特に制約はない。

[製造上の制約]

素材

- ・桐材のほか、ウォールナット、オーク、ホワイトアッシュ、パイン、など一般的な家具に使用される木材
- ・スチール、真鍮、ガラス、レジンなど異素材の使用可

[販売価格]

1 ユニットあたり 3 万～10 万円程度

ベースとなる「桐箆笥ユニット」と「その他のユニット」 共通の仕様

[製造上の制約]

木材加工

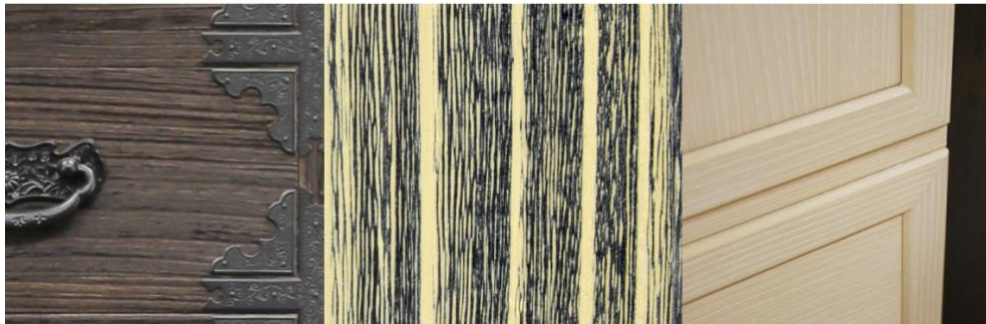
- ・3 軸木工 NC、3DCG (fusion360) を使用した加工が可能
- ・木製品の加工はほとんど可能（ただしロクロ成形^{※3}と曲げ木^{※4}は不可）

金属加工

- ・金物同士の簡易な金属溶接が可能

塗装

- ・桐材部分は、自社の塗装技術の採用を前提とする
- ・自社の塗装技術は、金色といった光沢のあるものを除いてどんな色でも色調可能



画像 自社の塗装技術の例(左から 焼桐蠟仕上げ^{※5}、焼桐砥の粉仕上げ^{※6}、表面特殊加工^{※7})

*焼桐砥の粉や表面特殊加工は砥の粉^{※8}を併用するため、つや消し感のある仕上がりとなる

詳しくは和光 HP へ <https://www.tansu.com/color-variations/>

- ・桐材以外の一般的な家具に使用される木材部分は、ウレタン塗装^{※9}、もしくはオイル塗装^{※10}

ユニットを組み合わせた状態の仕様

- ・「桐箆筥ユニット」や「その他のユニット」を自由に組み合わせて使用できること。ただし、「桐箆筥ユニット」単体で使用する場合も考慮すること。

[サイズ]

- ・組み合わせて使用した場合の高さサイズは最大 1400mm 程度とし、圧迫感を与えないよう考慮してもらいたい。

[組み合わせ方法]

ユニット同士の積み重ねを想定しているが、実現性と安全性を考慮した上で、積み重ねる、横に置く、あるいはそれ以外にも「桐箆筥ユニット」と「その他ユニット」の組み合わせ方法があれば、外形デザインと合わせて提案してもらいたい。

■ターゲット・販売戦略

[ターゲット]

- ① 着物を少数枚所有しており、桐箆筥の購入を検討している方

- ・初めて呉服店で着物を購入した方
- ・習い事で着物を着る方（茶道、花道、舞踊など）
- ・特別な日に着るため、高価な着物を購入した方
- ・大切な着物を譲り受けた方

など

- ② 着物を贈る際に、着物を収納する桐箆筥を併せて贈りたいと考えている方

- ・娘息子へのお祝いで着物を贈る両親
- ・孫へのお祝いで着物を贈る祖父母
- ・大切な着物を譲る方

など

[販売戦略]

自社ショールームや自社サイトでの販売

お付き合いのある呉服店と連携した販売

この商品を機に、一般家具店への売り込みを行う予定

■デザインに対する考え方とデザイン事業者への要望

弊社は桐箆笥の製造をはじめ、組子ベッド、家具の再生、桐のギターや桐のまくらなど、桐にこだわった商品を製造しています。『桐箆笥を扱いやすいモノに』というコンセプトのもと、「表面特殊加工」を製造開始当初より取り組んでおり、この加工の恩恵もありこれまで多くのお客様に選ばれる商品を作り続けている実績があります。

1977年に桐箆笥の製造を始めてから、これまで和箆笥の定番のデザインを守り続けていましたが、住環境の変化や求める空間のテーマが、カジュアルスタイルやカジュアルモダン、北欧スタイルなど、多様化した時代背景によって、これまでの和箆笥の需要が狭くなり、従来製品だけの製造を続けていくにも限界がみえてきました。

そんな時、現在お付き合いのある呉服店様数社より「背の高い古風な桐箆笥は売りづらい」という意見をいただき、モダンでカジュアルな桐箆笥をもっと拡充する必要があると確信しました。呉服店様から「少ない枚数を保管できる桐箆笥があると良い」とご提案を頂き製品化したものが以下の製品です。



画像：ユニットを重ねることで増設する桐箆笥 優

【優 製品ページ】 <https://www.tansu.com/you/>

この製品もユニットを重ねることで増設できるというコンセプトですが、家具の展示会に出展したところ来場者から良好な反応を得ることができました。今回開発する商品は組み合わせて使用する桐箆笥ユニットの新たな商品レパートリーにしたいと考えています。

デザイン事業者との商品開発は経験がありませんが、自社開発では「従来の桐箆笥」から抜け出せない現状があり、デザイン仕様書の制約に基づいて、デザイン事業者が提案する桐箆笥に新しい可能性を見出したいと期待しています。

■実施スケジュール（予定）

2022年9月：デザイン事業者とマッチング完了、デザイン仕様決定～試作

2022年10月：一次試作の完成

2022 年 11 月：最終製品完成、知的財産権の申請
2022 年 12 月：資料作成(撮影等)、自社 HP にてテスト販売
2023 年 1 月：大川家具新春展にて展示
2023 年 2 月頃：事業終了
2023 年 4 月：春の大川木工まつり展示(以降の展示会でも展示)
※デザインコンペ等の開催がある場合は積極的に参加していく。

■プロジェクト参画企業等

企業名：株式会社総桐箆筒和光

主な商品：桐箆筒・組子ベッド・家具再生・桐楽器・桐雑貨・等

参考 URL：<https://www.tansu.com/>

■語句説明

※1JAPANDI スタイル…Japanese (日本の) と Scandinavian (北欧の) をミックスしたインテリアスタイルのこと 参考サイト <https://www.nichi-bei.co.jp/column/32/>

※2 たとう紙…着物を収納する専用の包み紙

※3 ロクロ成形…高速で回転させた木材に刃物をあてて削り出す加工方法。木工旋盤、ウッドターニングともいう

※4 曲げ木…高温で熱した木材に圧力を掛けて、木材を曲げる加工方法

※5 焼桐蠟仕上げ…伝統工法の一つ。桐材を焼いた後、ロウを何度もすり込む事で木目を引き立たせる

※6 焼桐砥の粉仕上げ(とのこ)…桐材を焼いた後、砥の粉を塗布し表面特殊加工を施す

※7 表面特殊加工…当社独自の塗装方法。変色を抑え手垢がつきにくく、桐の呼吸(木材伸縮)に対応できる

※8 砥の粉(とのこ)…石を粉末状にしたもので、着色や目止め、研磨などに使われる素材

※9 ウレタン塗装…ポリウレタンを主成分とする。木材に塗布すると塗膜を形成し、光沢が強く高級感のある仕上がりとなる。

※10 オイル塗装…植物性のオイルを使用する。木材に塗布するとオイルが木に染み込み、ナチュラルな仕上がりとなる。